

第2章 自転車駐車場の目指すべき姿

自転車駐車場は、自転車等の利用者の利便を図るとともに、放置自転車を抑制して歩行者の安全を確保する上で重要な施設となっています。

サイクルステーションとりでは、歩行者デッキによって取手駅と直結させることで、末端交通としての自転車の利便性を向上させています。また、機械式駐輪機の格納庫を上空に浮かべることで、限られた空間により多くの自転車を収納することができます。公衆トイレを併せ持ち、高い公共性を備えた自転車駐車場です。

新取手駅自転車駐車場は無料の自転車駐車場であり、誰でも自由に利用することができます。また、新取手駅に隣接しているため、駅利用者の利便に資する施設です。

自転車は環境負荷の小さいエコな乗り物であり、持続可能なまちとして、中心市街地を活性化していく上で有用な次世代インフラと考えられます。そのため、自転車駐車場は空港や駅などと同じく都市におけるターミナルであり、まちの活性化に寄与する施設であることが求められています。

これらを踏まえ、以下のとおり自転車駐車場の目指すべき姿となる(1)から(4)を設定します。

(1) 安全安心な施設

施設の長期使用を目指し、周期的・計画的な修繕・改修を実施する予防保全型維持管理手法を導入し、長期にわたり施設の有効活用を推進しながら安全安心な施設を目指します。

(2) まちのターミナルとしての施設

障害の有無、年齢、性別等にかかわらず、誰もが利用しやすい環境を整え、次世代インフラとして、自転車の利用が促進されることで、多くの市民に利用される施設を目指します。

(3) 持続可能な施設

設備の更新、改修時においては、省エネルギー性能の優れた設備導入などにより、環境負荷の低減に配慮した、持続可能な施設を目指します。

(4) 環境変化に対応した施設

人口減少等による利用需要の変化に応じた効率的・効果的な施設環境の整備について、今後、より一層の取組を目指します。